

平成27年10月11日
多職種協働による在宅チーム医療のための
地域リーダー研修会

実践 多職種カンファレンス 事例
服薬指導 訪問薬剤指導

みらい平クリニック院長 小松崎八寿子
あおやま薬局 入村直也

事例紹介

Kさん 92歳 男性 要介護 2

- 【診断名】 COPD、慢性心不全、
脳血管性認知症、不眠症
- 【家族構成】 夫婦2人 子供はいない
- 【性格】 短気
- 【意思疎通】 大きな声で話せば大丈夫
- 【キーパーソン】 甥(千葉在住)
- 【サービス】 訪問介護(週3回)、
デイサービス(週3回)

【治療薬】

・シムビコートタービューハイラー

吸入気管支拡張剤+ステロイド剤 1日2回 1回2吸入

・ムコダイン錠250mg

去痰剤 1日3回 1回2錠 毎食後

・アーチスト錠2.5mg

慢性心不全治療剤 1日2回 1回1錠 朝夕食後

・シロスタゾール錠100mg

抗血小板剤 1日2回 1回1錠 朝夕食後

・クレストール錠2.5mg

脂質異常改善剤 1日1回 夕食後

・ブロプレス錠4mg

高血圧治療剤 1日1回 1回1錠 夕食後

・ユーロジン錠2mg

睡眠導入剤 1回1錠 1回1錠 就寝前

【日常生活動作】

歩行	杖使用
移乗動作	一部介助
起き上がり動作	一部介助
食事	自力摂取 (嚥下機能低下)
排泄	自力で行う

【経過・状況】

89歳まで、近くの医療機関に自家用車で通院。
90歳で自損事故起こし、近医が往診することに。
長谷川式簡易スケール(HDS-R) 15点/30点
『夫婦で穏やかに田舎で余生を暮らしたい』という希望

訪問薬剤管理指導の経緯

妻からきちんと飲めていない事、自己調節することがあることを何度か聞いていた。
薬はそのままいつも同じ量投薬されていた。
薬剤管理の問題があると判断し、主治医に直接話して
訪問薬剤管理指導行うことになった。

【問題点】

- ・ディサービスは面倒だと言って、行かなくなっ
てしまった。
- ・薬は飲み忘れが多く残っていて、古い薬も捨
てずに残している。
- ・薬が多いので、医師には内緒で自己調節し
ている。
- ・嚥下に問題が出てきている。
- ・薬は奥さん(脳梗塞後遺症で片側麻痺あり)
が一応管理しているが、あちこちに薬が置いて
あり、どこに置いたかわからなくなっている。

【検討内容】

①薬をきちんと服用しないのはなぜだと考えられますか？

②この状況で、訪問薬剤管理を入れてどの様にしたら良いでしょうか？

注意！高齢者に目立つ 薬の包装シートの誤飲事故

【事例1】

処方された薬を、包装ごと飲みこんで、喉が痛く救急車で病院行ったが、喉頭隆起の裏側に薬が引っかかってレントゲンでは見つからず、数時間かけて内視鏡で取り出した。

【事例2】

貧血検査のため内視鏡を飲んだところ、十二指腸球部にPTP包装が刺さっていた。取り出したが穿孔(せんこう)しており、手術した。

高齢者の薬の包装シート 誤飲・誤食事故原因

- 薬を1錠分ずつハサミで切り離して保管し、そのまま飲んでしまう。
- 視覚や味覚などの衰えに加え、認知症による判断力低下も一因

高齢者の薬の包装シート 誤飲・誤食事故を防ぐために

- 食品や薬とそれ以外のものを分けて保管する
- 投薬時、1錠に切ったもので渡すこと避ける。
- 保管時、1錠に切っておかない。
- 高齢者や自ら薬の管理難しい方には、必要に応じて1回分ずつの薬を袋にまとめる「一包化」とする。